

秋田県教育カウンセラー協会機関誌

教育カウンセラー あきた

第17号

2010年（平成22年）8月8日発行

「教育立県あきた」の 推進にがんばろう

秋田県教育カウンセラー協会

代表 水戸谷 貞夫

平成20年7月1日に閣議決定された「教育振興基本計画」は、今後の10年間を通じてわが国の教育が目指すべき姿を示すとともに、その進捗状況について定期的に点検し、その結果をフィードバックし、次の取り組みに反映させるP D C A（Plan-Do-Check-Action）サイクルの実践を行うことにしている。

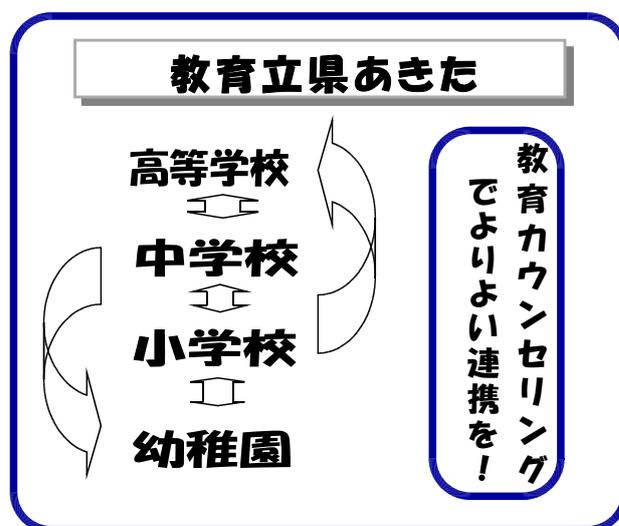
各都道府県でも、これに準ずる教育改革計画を立案し、公表し、実践を進めている。秋田県では、現在までの教育の歩みを基礎とした「教育立県あきた」を目指した施策や事業を検討し、より具体的な内容等を近く公表させる旨をうかがっている。

本協会としては、既に示されている「学校教育の指針」などを参考に共通理解を深め、その実践に役立てる準備を進めるべきであろうと考えている。例えば、本県では豊かな人間性を育む学校教育として、（1）思いやりの心を育てる一人間愛の大切さの体得、開かれた心の育成、（2）心と体を鍛える一生きぬくたくましさの育成、働くことの喜びと意義の理解、（3）基礎学力の向上を図る一自ら学ぶ意欲と態度の育成、児童生徒の個性と能力の伸長、（4）教師の力量を高める一幅広い識見と教育愛

のかん養、社会の変化に即応した研修の充実、などについて、それをどのように成果を確かめるかなどについて十分に時間をかけているかなども確かめたいと考えている。

さらに、学校教育の共通実践課題である「ふるさと教育」の推進についても、心の教育の充実・発展を目指したふるさとを舞台とした自然体験や社会体験などの一層の推進及び体験と関係した各教科の学習の充実が示されている。

これらのことについては、自校だけで取り組むべきではないと思う。例えば、小学校の場合には幼稚園や中学校・高等学校などとも連携することが大切である。そのときに教育カウンセリングが活かされると信じている。



カウンセリング・トピックス ～ 「アサーション」

英和辞典でアサーション(assertion)をひくと、「主張すること」「断言、言明、所説」と書かれているが、心理学やコミュニケーション研究の領域では「自分も相手も大切にしようとする自己表現」「自分の意見、考え、気持ち、欲求などを、正直に、率直にその場にふさわしい方法で述べること」「同時に、相手が同じように表現することを待つ態度を伴うもの」…という意味になる。

そのような表現が出来るようになる為の技法が『アサーション(アサーティブ)・トレーニング』と呼ばれるもので、近年では学校や企業など多くの領域で導入されるようになった。

アサーション・トレーニングの発祥は、1960年代のアメリカ。当初は黒人や女性の権利拡張、公民権運動など、弱者の為の理論として注目されたが、1970年代以降は幅広い分野で人間関係の促進に活用されるようになった。わが国では、平木典子が日本人に合うようなトレーニング様式を整え、1981年に開始された。

日本で最初にアサーションに着目したのは、キャリア・カウンセリングと職場の精神保健の向上・維持のために取り入れた産業カウンセラーであった。また、他者の援助にかかわっている医療・看護職・社会福祉職の人々が、コミュニケーションが上手く出来ずに人間関係につまずいたり、不本意な立場に立たされていたりする人に多く出会い、アサーションの必要性に気づき、取り入れるようになった。

このような経緯で普及しはじめたが、「アサーションを伝えるには、まず自らがアサーティブになること」が必要であるため、カウンセラーなど援助職自身が研修するようにもなっていた。

アサーション・トレーニングではまず、3タイプの自己表現(コミュニケーションのパターン)を学ぶ。

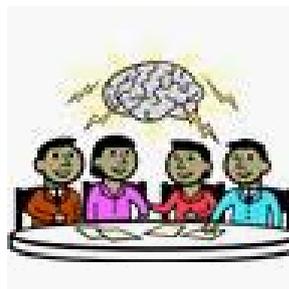
①**攻撃的(aggressive)**～自分のことだけを考えて他者を踏みにじるタイプ。相手の気持ちを無視したり軽んじたりして、自分の言い分だけを通し相手に押し付ける。相手に有無を言わせない。

②**非主張的(non-assertive,あるいは服従的=submissive)**～他者を優先し、自分を後回しにするタイプ。考えや気持ちを表現できない。言いたいのに言えない、言っても通じるように伝えていない。

③**アサーティブ(assertive)**～自分のことをまず考えるが、他者をも配慮するタイプ。自分の意見、気持ちを正直に、率直に、その場にふさわしい方法で言ってみようとする。同時に、相手が同じように表現することを待つ。

これらの型・パターンを理解した後、モデルを使ってアサーティブな表現を疑似体験し、ロールプレイを通してそれを実際的に学習するのである。

なお、アサーションは、単なる「話術」ではない。その基盤として「基本的なアサーション権」、「自己信頼(自己尊重)と他者信頼(他者尊重)」、「アサーティブなものの見方・考え方」「スキルの習得」という4つの土台が備わって初めて、個々の具体的な場面でのアサーションができるようになる。



参考・引用文献

『教育カウンセラー標準テキスト』; 図書文化, 日本教育カウンセラー協会編, 2004 (協会理事 上級カウンセラー 浅沼知一)

書籍の紹介 ～児童心理 2009年10月号臨時増刊(金子書房)』特集～
『学校における「心理教育」とは何か』

いま、子どもたちの心の問題の予防・対応のために、心の成長を促すために、心理教育的プログラムが導入されています。効果的な実施のしかた、留意したい点などに焦点を当て、プログラムを紹介しています。

秋田県教育カウンセラー協会の事業に講師でいらした先生方も執筆されています。

【目次】第Ⅰ部 心理教育の理解

○学校における「心理教育」の必要性—子どもたちの発達課題への予防的・開

発的支援 /大友秀人

○「心理教育」の実践に必要な基礎理論を学ぶ /会沢信彦

第Ⅱ部 学校における心理教育の実際

○友だち関係をつくる—いじめ予防のためにまとまりのあるクラスをつくるエクササイズ—構成的グループエンカウンターを活用 /阿部千春

○「ほめ言葉のプレゼント」—アサーション・トレーニングの活用 /鈴木教夫

第Ⅲ部 心理教育的アプローチの実践例

実践紹介 大仙市立平和中学校 山部信彦
「トーキングスティックで
活発な中学校道徳！」

中学生の道徳授業でもっとも大変なのは、生徒が活発に発言する授業作りではないかと思えます。せっかく苦勞して指導案を練ったのに肝心の授業で生徒が思ったように発言してくれないときの焦りは大変なものです(私だけでしょうか・・・)。そんな事態にならないようにするための工夫を一つ紹介したいと思います。

道徳授業で私が考える理想は、教師の発問に対して、生徒が自然に意見を言い合ったり、他の生徒の意見に付け加えたりしていく姿です。また、意見を言い合う中でこれまで気づかなかった新たな価値に気づいたり、再確認したりしていくことが大切だと思います。そうなる準備段階としてトーキングスティックを使います。トーキングスティックを持った人が発言権を持つ、というルールなので話し合いの時のルール作り(スティックを持った人しか話をしない)にも有効です。それ以外にも、スティックを導入することで自主的に発言しようとする生徒が増えるように思いました。私のクラスでは、普段は発表力のある5、6人の生徒が発表するだけなのですが、そのときは27人中25人が発表しました。その後

2回ほど授業を行っていますが、スティックがなくても2、4、5人が発表できるようになっています。

『クラス会議で子どもが変わる』によると、「物静かな生徒や引っ込み思案の生徒にとって、自分にも力があるのだということ象徴するような形のある小道具を手にすることや、もし望めば交替できるという選択肢をもつことは、大いに力づけられることになる」また、「クラス会議で小道具を持っているときに、自分の考えやアイデアを発表する唯一の機会であるような生徒が必ず存在することを、多くの教師が観察しています」と書いていました。今回の授業でわかったことは、意見は持っているが発言できない生徒は意外に多いのではないかということでした。トーキングスティックは自分自身の考えを発表することの苦手な生徒の発表を促すという点で有効な手法ではないかと思えます。今後も「クラスみんなで道徳」を目指します。

参考文献：『クラス会議で子どもが変わる』星雲社 ジェーン・ネルソン、リン・ロット、H・ステファン(著) 会沢信彦(訳) 諸富祥彦(解説) 2000

2010年 教育カウンセラー養成講座 秋田会場

日時 2010年10月9日(土)・10日(日)・11日(月) 9:30～16:30

初日は9:00より受付・9:20から開会行事があります。

会場 秋田県総合保健センター(秋田市千秋久保田町6-6 Tel.018-831-2011)

対象 学校教職員など教育関係の方、カウンセラー教育近接領域の方、カウンセリング専攻学生など

定員 グレードアップ講座 60名

参加費 35,000円(受講料・資料代を含む)

日本教育カウンセラー協会会員、後援各学会会員、心理検査士および学生は32,000円となります。

※3日間の受講を基本といたしますが、学校行事等で受講できない日がある場合はご相談ください。

申込み方法 払込取扱票に必要事項をご記入の上、参加費を下記郵便振替口座にご送金ください。入金確認後、受講票・認定申請書類をお送りいたします。

加入者名	秋田県教育カウンセラー協会
郵便振替口座番号	02270-4-39679

申込期間 2010年8月2日(月)～9月15日(水)

講座内容 「SGEリーダーの心得」(東京聖栄大学 教授 岡田 弘)

「教師のためのアサーション」(創価大学大学院 教授 園田 雅代)

「学級集団のアセスメントと学級経営 ―日本の学級経営と生徒指導を中心に―」(早稲田大学 教育・総合科学学術院 教授 河村 茂雄)

「非行問題の理解と対応」(早稲田大学 教育・総合科学学術院 教授 河村 茂雄)

「不登校への対応 ―今、不登校をどのように理解し、対応したらよいか―」(早稲田大学 教育・総合科学学術院 教授 菅野 純)

「特別なニーズへの対応 ―発達障害の特性の理解と教育支援のあり方(その2)―」(目白大学大学院 教授 山崎 晃資)

編・集・後・記

先日の役員会(7月10日)で協会便りを2回発行することになりました。忙しいのだからよせばいいのに・・・とも思いましたが、昨年よりも一歩前進!のスタンスが必要ではないかと感じて2回に踏み切った次第。案の定取り組みが遅れ、原稿集めに四苦八苦。しかし、決めたことを守るのが自分にとって大切なことと思い、発行までこぎつけました。突然の原稿依頼でとまどわれた方もたくさんいらっしゃいます。申し訳ありませんでした。紙面を借りてお詫び申し上げます。次回はもう少し早めに取り組むので、またご協力をお願いします。ネタをお持ちの方、是非教えてください。優先して掲載いたします。みんなで協会便りを作っていきましょう。(Y)